

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792830010		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム みらい 1		
所在地	福島県西白河郡矢吹町八幡町827		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町村受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境に恵まれ日当たりが良い木造平屋建てです。のどかな田園に囲まれており、春夏秋冬を身近に感じて生活をする事が出来ます。毎月歌の慰問やお花見、夏祭り等季節を取り入れた行事を行っています。また、近くにスーパーマーケットがあるので売り出しの時には、入居者様と一緒に買い物に出かけております。町内の保育園児、幼稚園児の慰問や運営推進会議では地域の方に参加して頂き協力を得ながら運営しております。
報・連・相、接遇そして身だしなみを念頭に支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 事業所は地域密着型サービスを踏まえた基本理念に基づき、積極的に地域との交流を実践している。特に近隣保育園との交流は恒例となっており、利用者の楽しみとなっている。また、ボランティア(音楽療法・歌謡・琴演奏・オペラ・舞踏等)も数多く受け入れ、地域の人々とのふれあいを大切にしている。
2 協力医療機関との連携が円滑に行なわれており往診もある。さらに職員として看護師が配置されており、利用者の健康管理や緊急時にも随時対応できる体制となっている。
3 職員の異動が少なく、経験豊富な職員が多い。管理者を中心に全職員が仕事に対する意識が高く、利用者本位の支援に努めており、職員のきめ細かなケアに利用者は穏やかな生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に、事業所独自の理念を作成し、職員全体で共有、実践できるようにしている。	事業所の「理念」は地域密着型サービスの意義や役割を踏まえたものとなっており、毎日のミーティング時に唱和し、全職員が共通の認識のもと「穏やかで温かい心の通い合う」暮らしの実現に向けた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会行事(お祭り)、地域活動等に参加し、地元の人々と交流する事に努めている。又ボランティアの方々の唄の慰問、幼稚園児等との交流も深めている。自治会にも入会し回覧板を回している。	事業所ではあらゆる機会を通して地域住民と交流している。地域の事業への参加や保育園児との交流、さらに多くのボランティアを受け入れ、日常的に交流している。近隣の農家からは野菜等の差し入れもあり、多くの交流を通して地域に根差した事業所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事等に、地域の方を招待し認知症を理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度行っている。ホームの取り組みに対し意見や助言を頂きながら、サービスの向上につなげている。	会議は定期的に行われており、委員は各分野から広く選任されている。内容は利用者や職員の状況、行事、防災訓練、事故、ボランティア等多岐にわたっており、委員との意見交換も盛んである。議事録の記載も適正に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と連絡を取り、市町村主催の研修などに、積極的に参加している。	行政の担当者とは利用者の状況報告や事故報告などを通して日常的に協力関係を築いている。また、2ヶ月に1回開催される社会福祉協議会主催の研修会には職員と町担当者も参加しており、情報交換の場となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中ホームの玄関は施錠せず、スタッフによるさりげない見守りを行なっている。散歩や買い物等と一緒に出かけたり、安全に配慮しながら自由な暮らしを支援している。	研修会を通して全職員が「拘束の弊害」について理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。特に「言葉による抑制」についても日々全職員が意識を共有して実践している。日中玄関の施錠は無く職員の見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学び理解している。特に言葉の虐待を常に心がけ、職員同士話し合える関係作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について良く理解出来るよう研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、十分に話し合う機会を設け、分かりやすい説明を行い、理解を得た上で契約を行っている。重要事項の変更がある場合でも十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見の聞き取りを行い、面会や電話等でも気軽に話せるように働きかけをしている。	面会時や利用者の状況報告等のあらゆる機会に家族の意見や要望を把握している。出された意見や提言は「スタッフ会議」で話し合い、事業所運営やサービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、スタッフ会議で全職員が意見を言えるようにしている。日々の業務中でも、いつでも話せる関係をつくっている。	管理者は職員とのコミュニケーションを大事にしており、気軽に話せる環境を作っている。月例での「スタッフ会議」等でも意見や提案を把握している。さらに年1回の個別面談を行っている。職員の意見、要望は「スタッフ会議」で検討のうえ事業所運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は福利厚生に力を入れており、ボウリング大会やカラオケ大会を実施し、ストレス解消に努めている。管理者は、職員の生活環境を把握し、勤務時間等を調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は、職員の力量に応じた社内外の研修を受講する機会を多く確保し、職員の質の向上に努めている。また、職員間での情報交換や指導が出来る環境をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他事業所と交流する機会を作り、情報交換をし、サービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早期に利用者の情報収集を行い、積極的に関わりを持ち、不安や気付きの共有が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時より、状況に合わせたサービスの支援を行い、家族と連携を取りながら、安心して生活出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の希望に合わせたサービスの支援が出来るよう、情報の共有に努め、状況に応じて他サービス導入を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側という関係ではなく、出来る事は一緒に協力しながら生活が送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、職員と家族間で情報交換を行っている。また、事業所の行事へ参加して頂けるよう、声掛けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来られるような雰囲気作りを行っている。また、友人や馴染みの床屋が散髪に来たり、家族と外食や外泊をされる方がいる。	友人・知人の訪問があり、これまでの関係が少しでも長く続けられるよう支援している。訪問理美容を受け入れているが、家族の協力を得て馴染みの美容院や商店等に行っている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の声掛けを通して、利用者同士が関わりを持てるように働きかけている。また、利用者同士の関係性などを職員間で情報共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、気軽に来所して頂けるよう声掛けしている。また、必要に応じて相談や援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	快適な生活が送られるよう、希望や意向を申し送り、カンファレンスで共有し、意向に沿ったケアを行っている。聞き取り困難な方には、これまでの暮らし方を勘案して把握している。	居室担当制となっているが、全職員が利用者一人ひとりに対して、些細な会話や仕草を見逃さず、意向や要望の把握に努めている。意向把握が困難な利用者には家族から要望や意向を聞き取り「ケース会議」を経てケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時の情報収集や、日々の会話から情報を得たり、入居後も御家族からお話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子や状況など、申し送りで情報を共有し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議を行い利用者様、御家族から要望を聞き取り、ケース会議で話し合い、利用者様に合った介護計画を作成している。	日々のケアの中から利用者の現状を把握し、本人・家族と話し合い、3か月ごとに介護計画を見直している。利用者の状態が急変した場合には本人・家族・主治医及び職員が協議の上その都度、現状に即した介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の現状把握を十分に行ない、日々の変化を見逃さず記録し、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族の状況や変化に合わせ、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と挨拶を交わしたり、関わりを持つようにしている。また、歌の慰問、園児の訪問等、多数のボランティアの方々と交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や御家族の意向を取り入れ、納得を得たうえで、かかりつけ医への受診支援を行っている。また、本人の状況に合わせ、御家族と相談しながら訪問診療への切り替えを行なっている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医の受診には家族同伴を基本とし、受診結果は家族と事業所が共有している。歯科医の往診もあり、法人では月1回歯科衛生士による口腔ケアや週1回の訪問看護により、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が来所する際には、申し送りや情報の共有を行っている。また、いつでも相談できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、経過状況を把握できるように病院や御家族と情報交換している。また、退院後も必要に応じ医療関係者に相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、利用者様と御家族と十分に話し合い、書面にて意向を確認している。医師との連携も取られており、重度化や終末期の医師協力が得られている。	「重度化した場合における(看取り)指針及び医療連携体制同意書」等を整備しており、利用時に事前確認書で理解と同意を得ている。また、利用者が重度化した場合には医師・家族・事業所と方針を共有しながら家族の希望によって対応しており、ターミナルケアも実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを整備し、周知徹底を行っている。また、緊急時の訓練も定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を作成し、毎月防災訓練を実施している。年2回は消防署の方達の協力を得ながら訓練を行っている。非常時の備蓄品も準備されている。	消防署立ち合いの防災訓練には運営推進委員の参加を得て年2回行われている。事業所ではあらゆる災害に備え、自主「訓練を年間計画し、訓練を重ねている。非常用備蓄品として水・レトルト食品・缶詰・米・コンロ・懐中電灯等を備えている。地域住民へは運営推進会議の中で協力を呼び掛けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保のため、一人一人に合わせた声掛け等、配慮しながら支援している。	利用者のプライバシーに配慮しながら、居室への入室の際や排泄、トイレ誘導をしている。広報紙に利用する写真等は利用者および家族の同意を得たものを掲載しており、利用者の個人情報は施錠可能なキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位で決めてしまわず、利用者様の思いを伺いながら、自己決定が出来るよう対応し、意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングやコタツ等、一人一人の利用者様に合わせ、好みの場所で過ごせるように工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行ったり、二ヶ月に一度、出張散髪の方が来訪していただき、利用者様の好みに合わせ、利用いただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	スタッフも利用者様とペースを合わせ、一緒に食事を楽しんでいる。お手伝いが出来る利用者様には、テーブル拭きや片付けを行って頂いている。	献立表は利用者の希望を取り入れながら職員が作成しており、食材は近隣の商店で購入している。食材の買い出し・食事の下準備・片付けなどは利用者と共にしている。職員は利用者と一緒に食卓を囲んでいる。また、外出支援時には外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表により、食事や水分の摂取量を把握している。また、一人一人の嗜好を把握し、状態に合わせて、ミキサー食を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に本社の歯科衛生士が口腔ケアを行い、歯科に関する助言を受けている。夕食後は歯磨きの声掛けをしたり義歯の方はあずかり洗浄し、サービスの向上につなげている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、一人一人声掛けをしてトイレ誘導を行っている。	利用者個々の排泄時間や仕草等からパターンを管理し、トイレでの自然排泄に向け支援している。リハビリパンツ・パット・オムツ等の使用も職員間で話し合い利用者一人ひとりにあった支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行い、バランスのとれた食事や水分を摂取して頂いている。また、ラジオ体操を行ない、適度な運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様に声掛けをしながら、要望にあわせて入浴を支援している。入浴剤も多数揃え、好みを聞きながら対応している。	利用者の希望により入浴を支援しており、入浴後はその都度湯船を洗浄し、湯を入れ替えている。入浴拒否者には担当者・時刻・話題を変えながら誘導しているが現在は入浴拒否は少なくなってきた。体調により入浴できない利用者には足湯・シャワー浴・清拭等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況を把握し、一人一人の希望に合わせて声掛け誘導している。夜間入床も本人の意思や状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の詳細等は、ファイルに保管しており、直ぐに確認できるようにしている。また、薬の変更や症状の変化時は記録をし、申し送りにて情報を共有している。服薬時には必ず名前と日付けを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、新聞折り、食事の後片付け等、お手伝い頂いている。また、唄を聴いたりDVDを観たり、体操など個別の好みに合わせ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ等を行ない、外出を支援している。事業所の行事ではバスを利用し、出かける機会を設けている。帰宅願望の強い方には御家族の協力を得て、一緒に出掛けて頂き、気分転換を図っている。	日常的に近隣の散歩や買い物を楽しんでいる。事業所行事として花見や紅葉狩りのバスの旅を企画し、ドライブを楽しんでいる。暖かい時期は近くの温泉に出かけ入浴と外食を楽しんだり、近隣の公園や飛行場、景勝地に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員となっているが、少額自己管理出来る方もいる。職員は利用者様と共にスーパーに買い物に出かけ、利用者様の希望に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族関係に配慮して、日常的に自由に利用できるよう支援している。携帯電話は睡眠を妨げないように、夜間帯は預っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の飾りは、季節に合わせたものを取り入れ、季節感や生活感を感じて頂き、居心地よく過ごせるように工夫している。	共用空間は広々としており、テーブルは小グループになるよう配置され、ソファも設置されている。また和室に炬燵もあり、利用者は自由に寛げるようになってきている。利用者の手作りの作品が飾られており、温もりのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が思い思いに過ごせるよう、場所や席の配置など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室内では利用者様が安心して過ごせるよう、御家族と相談しながら、馴染みの物などを持ち込んで頂いている。	居室は洋室仕様となっており、介護ベット・エアコン・換気扇・クローゼットが標準装備である。居室は広くベットの位置も自由に変更し利用者が心地よく過ごせるよう配慮されている。利用者は使い慣れた家具等を持ち込み、それぞれが個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるよう、各居室や共有スペースに手すり等を設置している。		